

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

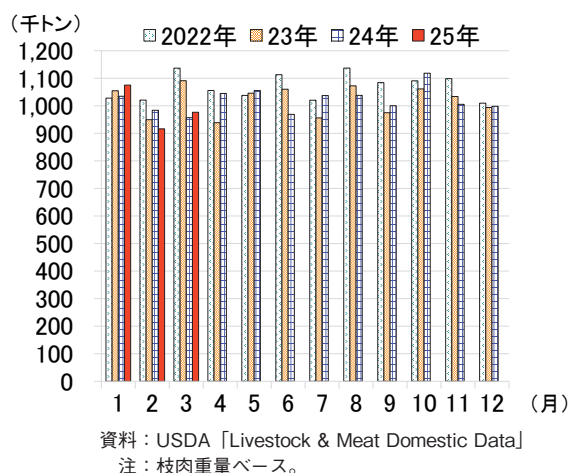
25年2月の牛肉輸出量、国内生産量の減少などから前年同月比6.9%減

25年3月の牛肉生産量は前年同月比2.1%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年3月の牛と畜頭数は248万4000頭（前年同月比1.0%減）とわずかに減少した。一方、同月の1頭当たり枝肉重量は395.5キログラム（同3.1%増）とやや増加した。この結果、同月の牛肉生産量は97万7000トン（同2.1%増）とわずかに増加した（図1）。

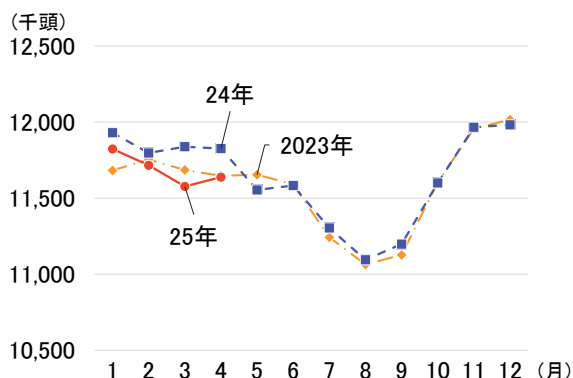
25年3月のフィードロット導入頭数は184万1000頭（前年同月比5.1%増）とやや増加した。これは、前月に、悪天候の影響で一部地域での導入が遅れたことなどにより、3月の導入頭数が増加したためとみられる。

図1 牛肉生産量の推移



また、同月の出荷頭数は172万5000頭（同1.1%増）とわずかに増加した。この結果、同年4月1日時点のフィードロット飼養頭数は、1163万8000頭となり、牛群が縮小傾向にある中で、国内の堅調な牛肉需要などを背景に、前月比では0.5%増とわずかに増加したものの、前年同月比では、1.6%減とわずかに減少した（図2）。

図2 フィードロット飼養頭数の推移

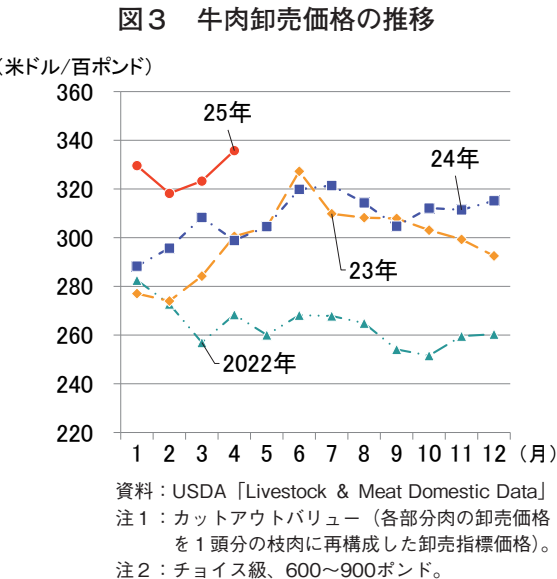


25年3月の牛肉卸売価格、前年同月比4.8%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年3月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注1）}）は100ポンド当たり323.25米ドル（1キログラム当たり1023円：1米ドル＝143.57円^{（注2）}、前年同月比

4.8%高)とやや上昇した(図3)。

(注1) 各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年4月末TTS相場。



25年2月の牛肉輸出量は前年同月比6.9%減

USDA/ERSによると、2025年2月の牛肉輸出量は、同月における国内の牛肉生産量

の減少や牛肉価格の高騰に加え、前年がうるう年であったことから、10万3136トン（前年同月比6.9%減）とかなりの程度減少した(表)。輸出先別に見ると、日本向けは2万3739トン（同1.5%減）、中国向けは1万5555トン（同16.4%減）、メキシコ向けは1万2045トン（同12.1%減）とそれぞれ減少した。一方、韓国向けは2万2522トン（同1.9%増）とわずかに増加した。

中国向け輸出について、中国海関総署（GACC）による米国内の牛肉輸出施設の認可登録更新が行われていないものがあり、これら施設から同国への輸出ができなくなっている(注3)。25年の牛肉輸出量についてUSDAは、中国向け輸出が他の輸出先に一部振り向けられる可能性はあるとしつつも、前月から6万1000トン下方修正の121万8000トン（前年比10.6%減）と見込んでいる。

(注3) USDAによると、牛肉については654の施設のうち、25年2月に4件、同年3月18日時点で386件が期限切れとなっている。海外情報「米国農務省、停止状態の中国向け食肉輸出認可施設の登録更新を公表（米国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004076.html)も併せてご参照ください。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 2月	25年 2月	前年同月比 (増減率)		25年 (1～2月)	前年同期比 (増減率)
			増減率	輸出割合		
日本	24,110	23,739	▲1.5%	23.0%	46,281	▲6.3%
韓国	22,100	22,522	1.9%	21.8%	46,071	1.8%
中国	18,614	15,555	▲16.4%	15.1%	34,382	4.3%
メキシコ	13,703	12,045	▲12.1%	11.7%	23,224	▲16.5%
カナダ	8,009	9,357	16.8%	9.1%	18,113	9.2%
台湾	7,157	5,462	▲23.7%	5.3%	9,720	▲17.2%
香港	3,368	2,532	▲24.8%	2.5%	5,418	▲17.9%
その他	13,670	11,924	▲12.8%	11.6%	24,341	▲5.9%
合計	110,732	103,136	▲6.9%	100.0%	207,551	▲4.0%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 小林 大祐)

枝肉価格が続伸、3月は25.6%高

24年の牛肉生産量、6年ぶりに前年を上回る

欧州委員会によると、2024年の牛肉生産量（EU27カ国）は657万5330トン（前年比3.0%増）とやや増加し、18年以来6年ぶりに前年を上回った（図1）。この要因として、牛飼養頭数が減少傾向で推移する中、（1）環境規制などにより乳用牛の淘汰が進み、堅調な牛肉価格を背景に出荷頭数が増加して、

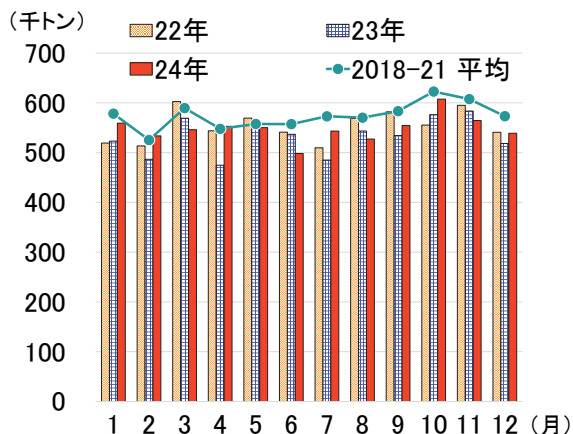
牛と畜頭数が2235万5110頭（同2.0%）とわずかに増加したこと（2）飼料価格の下落などによる長期肥育の傾向から、1頭当たり枝肉重量が294.1キログラム（同1.0%増）と3年ぶりに294キログラムを超えたことが挙げられる。

国別の状況を見ると、生産量の増加が顕著となったポーランド（同23.8%増）とイタリア（同6.3%増）は、いずれもトルコ向け輸出が旺盛となり、また、スペイン（同2.3%増）は24年2月からアルジェリア向け輸出が開始されるなど、域外需要の高まりも生産量の増加に寄与したとみられる。

25年3月の枝肉卸売価格、前年同月比25.6%高

2025年3月の牛枝肉平均卸売価格^{（注1）}は、1キログラム当たり6.31ユーロ（1034円、1ユーロ：163.67円^{（注2）}、前年同月比25.6%高）と記録的な高値が続いている（図2）。欧州委員会によると、環境規制などにより中長期的な牛飼養頭数は減少傾向にある

図1 牛肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別牛肉生産量の推移

（単位：千トン）

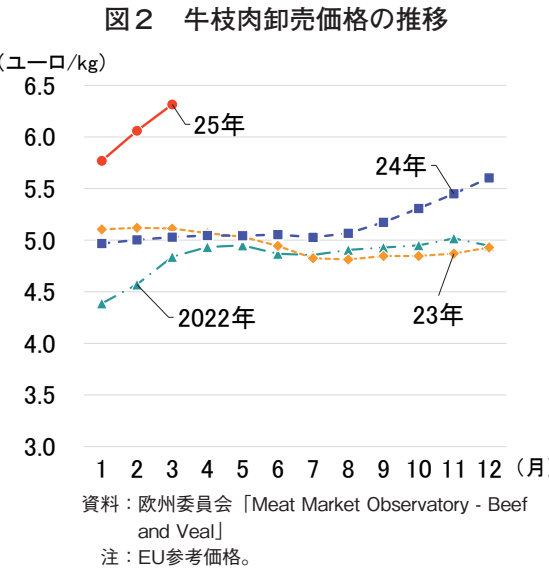
国名	2021年	22年	23年	24年	前年比 (増減率)
フランス	1,424	1,361	1,301	1,299	▲0.2%
ドイツ	1,072	987	997	1,006	0.8%
スペイン	718	732	698	714	2.3%
イタリア	748	747	620	659	6.3%
ポーランド	555	541	515	637	23.8%
アイルランド	595	621	600	603	0.5%
オランダ	430	422	437	433	▲0.9%
その他	1,261	1,229	1,217	1,225	0.7%
合計	6,802	6,640	6,385	6,575	3.0%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

中、域内外での牛肉需要が堅調であることが牛肉価格の上昇につながったとしている。

(注1) 若雄牛(A)、去勢牛(C)および若齢牛(Z)のうち枝肉の格付けが上(R)、枝肉の脂肪の付着度合が平均的(5段階中3)なものの平均価格(A/C/Z-R3)。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年4月末TTS相場。



24年の牛肉輸出量、輸入量はともに増加

2024年牛肉輸出量は、48万450トン（前年比11.3%増）とかなり大きく増加した（表2）。中でも、輸出の7割を占める冷蔵牛肉は、最大の輸出先の英国向けはやや減少（同5.5%減）したものの、トルコ向け（同71.1%増）やアルジェリア向け（同74.2倍）の増加がけん引した。

また、同年の牛肉輸入量は、27万2196トン（同8.3%増）とかなりの程度増加した（表3）。域内の牛肉価格の高騰やアルゼンチン産牛肉輸入規制の緩和などにより、輸入の3分の2を占める冷蔵牛肉（同4.8%増）、そして冷凍牛肉（同15.9%増）ともに増えた。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

品目	輸出先	2023年	24年	前年比 (増減率)
冷蔵	英国	159,685	150,901	▲5.5%
	トルコ	42,299	72,375	71.1%
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	36,249	33,220	▲8.4%
	アルジェリア	395	29,316	7321.8%
	スイス	12,541	15,197	21.2%
	その他	31,024	33,008	6.4%
	合計	282,193	334,017	18.4%
冷凍	英国	72,372	66,802	▲7.7%
	フィリピン	10,660	12,197	14.4%
	カナダ	7,588	7,625	0.5%
	香港	5,787	5,227	▲9.7%
	日本	4,535	5,098	12.4%
	その他	48,402	49,484	2.2%
	合計	149,344	146,433	▲1.9%
冷蔵・冷凍計		431,537	480,450	11.3%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

表3 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

品目	輸入先	2023年	24年	前年比 (増減率)
冷蔵	英国	60,614	61,980	2.3%
	アルゼンチン	45,612	47,110	3.3%
	ウルグアイ	21,515	21,479	▲0.2%
	ブラジル	16,399	19,092	16.4%
	米国	14,119	12,656	▲10.4%
	その他	13,053	17,134	31.3%
	合計	171,312	179,451	4.8%
冷凍	ブラジル	41,068	39,810	▲3.1%
	英国	16,121	17,139	6.3%
	ウルグアイ	10,378	12,240	17.9%
	ボツワナ	1,235	5,942	381.1%
	アルゼンチン	2,893	5,736	98.3%
	その他	8,347	11,878	42.3%
	合計	80,042	92,745	15.9%
冷蔵・冷凍計		251,354	272,196	8.3%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

(調査情報部 藤岡 洋太)

豪州

25年第1四半期の牛肉輸出量は歴史的な高水準を記録

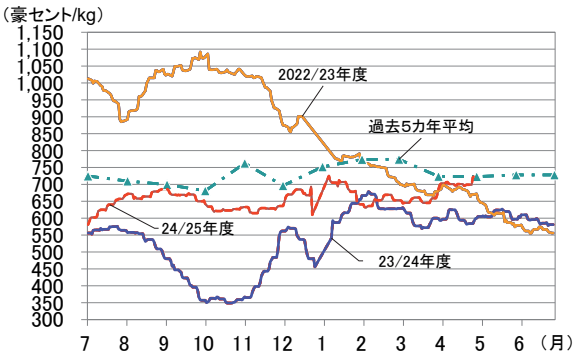
25年4月の若齢牛価格、供給不足懸念などから上昇

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近2025年4月30日時点で1キログラム当たり725豪セント（674円：1豪ドル＝92.96円（注））となり、4月は総じて上昇した（図1）。

3月から4月にかけて主要肉牛生産地域であるクィーンズランド（QLD）州西部で発生した洪水では、約27万頭の牛が被害を受けたと推定されており、牛の供給不足への懸念からEYCIが強く反応し、4月第1週には前週平均から7.4%高となる同703豪セント

（654円）を記録した。その後は、価格上昇に伴い生産者の出荷意欲が高まり、牛の出回り

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注1：年度は7月～翌6月。
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クィーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも関連関係にある。

頭数が増加したため価格は安定して推移したが、複数の祝日と週末が重なった4月下旬の連休後、加工業者からの引き合いが高まり、直近では若干の上昇が見られた。

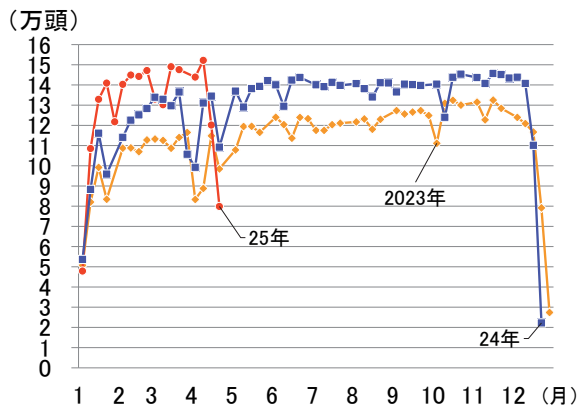
今後の見通しについてMLAは、QLD州と同じく主要肉牛生産地域であるニューサウスウェールズ（NSW）州での潤沢な降雨により放牧環境が改善し、牧草肥育農家からの若齢牛の需要増が見込まれることで、需給のひっ迫傾向は続く予想している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年4月末TTS相場。

25年4月後半のと畜頭数、連休による大幅減も需要は堅調

2025年4月の週間成牛と畜頭数は高水準で推移しており、同月第2週は15万2180頭（前年同期比16.1%増）と、19年12月以来の15万頭超えを記録した（図2）。第3週以降は、複数の祝日と週末が重なり例年に比べて長期の連休となったことから、食肉処理加工施設の稼働率が低下し、と畜頭数は大きく下落した。一方で、引き続き需要は堅調を維持しており、現地報道によると、連休

図2 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：成牛のみ（子牛は含まない）。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

明けの食肉処理加工施設の予約の取り合いが起きているとされている。

25年第1四半期の牛肉輸出量、高水準を記録

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年3月の牛肉輸出量は11万2423トン（前年同月比5.5%増）と増加した（表）。また、25年第1四半期（1～3月）では31万974トン（前年同期比12.7%増）となり、第1四半期として過去最大の水準となった。

3月の輸出量を輸出先別に見ると、米国向けは3万2282トン（同21.9%増）と大幅に増加した。MLAによる米国内の調査によると、4月の米国向け輸出も前年を上回る水準と報告されており、現時点で関税措置の影響は見られていない。現地報道によると、米国向けの加工用牛肉（90CL：赤身率90%のひき肉用）の輸出価格は、米国による追加関税措置後も変わっておらず、米国の輸入業者や小売業者が追加コストを負担しているとされている。

また、中国向けは2万263トン（前年同月比22.9%増）と大幅に増加し、25年第1四半期（1～3月）では、第1四半期として過去最高の5万6544トン（前年同期比22.0%増）を記録した。現地報道によると、同国が米国産牛肉に課した追加関税（2025年3月10日発効）の影響から、豪州産牛肉への需要が高まっていることが要因とされている。一方で、豪州の穀物肥育牛肉の生産能力は米国の代替として十分な供給量を確保できる水準ではなく、ブラジルも中国向け輸出を増やす方針を示していることから、今後も中国向けの増加が続くかは不透明との報道もある。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 3月	25年 3月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)
米国	26,484	32,282	21.9%	92,060	35.1%
中国	16,484	20,263	22.9%	56,544	22.0%
日本	21,007	18,718	▲10.9%	54,639	▲10.6%
韓国	14,946	16,324	9.2%	44,698	10.4%
東南アジア	15,945	11,915	▲25.3%	28,194	▲1.1%
中東	3,133	3,112	▲0.7%	8,043	▲1.0%
E U	1,007	1,269	26.0%	3,651	27.3%
その他	7,734	9,147	18.3%	23,127	13.4%
輸出量合計	106,573	112,423	5.5%	310,974	12.7%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

(調査情報部 国際調査グループ)

ブラジル

24年の牛肉輸出量は前年を大幅に上回る

24年の牛と畜頭数および牛肉生産量は過去最大

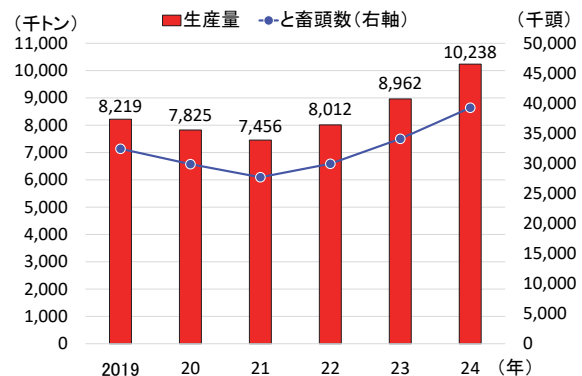
ブラジル地理統計院（IBGE）の統計資料によると、2024年の牛と畜頭数は3927万5000頭（前年比15.2%増）、牛肉生産量は1023万8000トン（同14.2%増）と、いずれも前年をかなり大きく上回り、IBGEが1997年に統計を取り始めて以来、最大となった（図1）。州別のと畜頭数を見ると、中西部マットグロッソ州（と畜頭数全体の18.1%）が最も多く、中西部ゴイアス州（同10.2%）、南東部サンパウロ州（同10.2%）と続いている。

と畜頭数および牛肉生産量がいずれも過去最大を記録した要因として、21年から始まった牛群の拡大期に並行する形で、中国向け

などを中心とした輸出需要の伸長が挙げられる。

一方、米国農務省（USDA）は、25年のブラジルの牛肉生産量について、輸出需要は好調ながらも、と畜頭数の増加により牛飼養頭数が減少していることから、雌牛を中心に

図1 牛肉生産量および牛と畜頭数



資料：IBGE

注1：牛肉生産量は枝肉重量ベース。

注2：2024年は速報値。

生産者の保留傾向が高まることで、牛肉生産量は前年並みにとどまると見込んでいる。

24年の牛肉輸出量は過去最大、25年第1四半期も好調を維持

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2024年の牛肉輸出量は、254万5759トン（前年比26.9%増）と前年を大幅に上回り、SECEXが1997年に統計を取り始めて以来、最大となった（表）。

一方、輸出単価は1キログラム当たり4.58米ドル（657円：1米ドル＝143.57円^{（注）}、同3.3%安）とやや低下し、結果として、輸出額は過去最大であった22年にはわずかに及ばなかった。

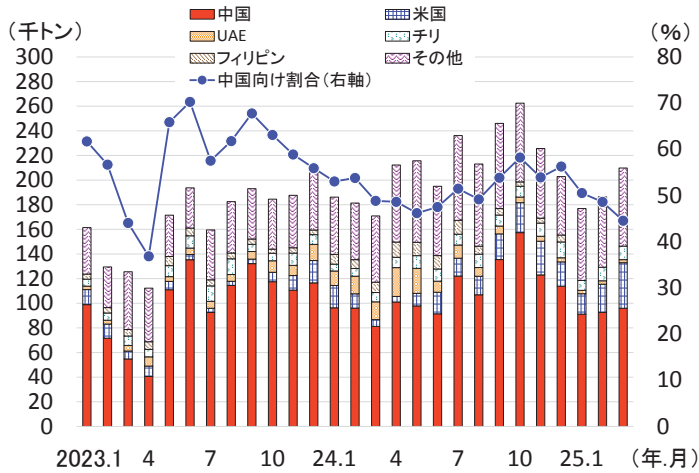
輸出先別に見ると、輸出量全体の5割以上を占める中国向けは132万2663トン（同10.6%増）と前年をかなりの程度上回ったほか、米国など上位輸出先も増加した（図2）。レアル安で推移する為替相場に加え、米国

表 牛肉輸出の推移

国名	2023年			24年			前年比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
中国	1,196,016	5,734,750	4.79	1,322,663	5,979,945	4.52	10.6%	4.3%	▲5.7%
米国	97,665	463,256	4.74	189,248	944,784	4.99	93.8%	103.9%	5.2%
アラブ首長国連邦	75,085	333,220	4.44	129,173	597,111	4.62	72.0%	79.2%	4.2%
チリ	99,266	482,857	4.86	108,771	528,079	4.85	9.6%	9.4%	▲0.2%
フィリピン	55,906	208,907	3.74	92,032	333,801	3.63	64.6%	59.8%	▲2.9%
ロシア	50,411	187,317	3.72	67,211	260,891	3.88	33.3%	39.3%	4.5%
エジプト	61,564	243,765	3.96	66,840	273,072	4.09	8.6%	12.0%	3.2%
トルコ	13,556	67,860	5.01	55,602	247,710	4.46	310.2%	265.0%	▲11.0%
その他	356,411	1,773,427	4.98	514,219	2,492,890	4.85	44.3%	40.6%	▲2.6%
合計	2,005,880	9,495,359	4.73	2,545,759	11,658,283	4.58	26.9%	22.8%	▲3.3%

資料：SECEX
注1：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。
注2：輸出量は製品重量ベース。

図2 牛肉輸出量および中国向け輸出割合（右軸）



資料：SECEX
注1：中国向け輸出量および割合はいずれも香港を含まない。
注2：輸出量は製品重量ベース。

での牛肉生産量減少により同国向け輸出量の大幅な増加（同93.8%増）や、各国が輸入先を米国からブラジルに切り替えたことなども増加を後押ししたとみられている。

25年第1四半期（1～3月）の牛肉輸出量は、58万6307トン（前年同期比11.4%増）とかなり大きく増加し、好調を維持している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年4月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

25年肥育牛価格、前年から一転して高水準で推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2025年4月23日時点の肥育牛価格は1キログラム当たり21.73レアル（558円：1レアル=25.70円^{（注）}、前年同日比39.3%高）となった（図3）。

24年の肥育牛価格は、6月まで下落傾向で推移していたが、それ以降は海外からの

需要が堅調であることなどから一転して上昇傾向となり、24年11月27日には、SECEXが1997年に統計を取り始めて以来、最高値となる同23.51レアル（604円、同45.9%高）を記録した。その後は反発して下落したものの、インフレの影響もあり、25年は高水準で推移している。



（調査情報部 原田 祥太）

豚 肉

米 国

25年2月の豚肉輸出量、前年同月比4.8%減

25年3月の豚総飼養頭数、前年同月比0.2%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年3月1日時点の豚総飼養頭数は、7451万2000頭（前年同月比0.2%減）と前年同月並みとなった（表1）。内訳を見ると、繁殖豚は598万頭（同

0.6%減）とわずかに減少し、肥育豚は6853万2000頭（同0.2%減）と前年同月並みとなった。24年12月～25年2月の産子数については、1腹当たり産子数が増加（前年同期比1.0%増）したものの、分娩母豚頭数が減少（同1.2%減）したことにより、同0.2%減となった。

表1 豚飼養頭数の推移

(単位：千頭)

区分	2023年	24年	25年	前年比 (増減率)
総飼養頭数（3月1日時点）	74,136	74,691	74,512	▲0.2%
繁殖豚	6,146	6,016	5,980	▲0.6%
肥育豚	67,990	68,676	68,532	▲0.2%
50ポンド（23キログラム）未満	20,444	21,369	21,301	▲0.3%
50～119ポンド （23～53キログラム）	19,049	19,113	19,032	▲0.4%
120～179ポンド （54～81キログラム）	15,749	15,754	15,700	▲0.3%
180ポンド（82キログラム）以上	12,748	12,440	12,499	0.5%
分娩母豚頭数（12～2月）	2,952	2,928	2,892	▲1.2%
産子数（12～2月）	32,537	33,755	33,701	▲0.2%
1腹当たり産子数（12～2月）（頭）	11.02	11.53	11.65	1.0%

資料：USDA「Hogs and Pigs」

注1：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

注2：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

25年3月の豚肉卸売価格、前年同月比4.0%高

USDA/NASSによると、2025年3月の豚と畜頭数は1041万4100頭（前年同月比0.4%減）と前年同月をわずかに下回ったものの、平均枝肉重量が増加（同0.9%増）したことから、同月の豚肉生産量は102万2400トン（同0.2%増）と前年同月並みとなった（図1）。

同月の肥育豚価格は、堅調な国内需要などを背景に100ポンド当たり64.51米ドル（1キログラム当たり204円：1米ドル＝143.57円（注1）、同7.8%高）とかなりの程度上昇し、前月比では1.0%高となった。同月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー（注2））は、同96.88米ドル（同307円、同4.0%高）と前年同月をやや上回ったものの、前月比では0.9%安となった（図2）。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年4月末TTS相場。

（注2）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

図1 豚肉生産量の推移

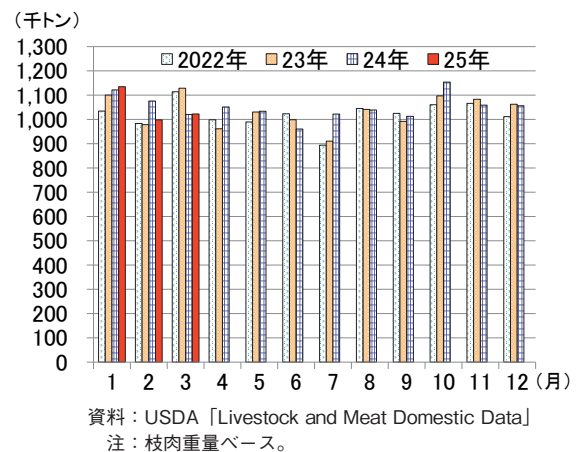
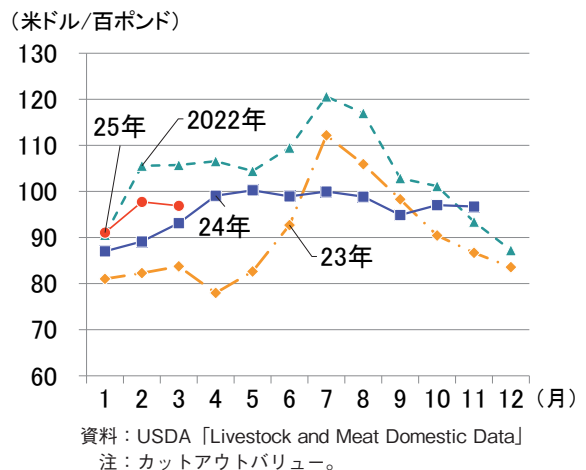


図2 豚肉卸売価格の推移



25年2月の豚肉輸出量、前年同月比4.8%減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年2月の豚肉輸出量は25万6400トン（前年同月比4.8%減）とやや減少した（表2）。最大の輸出先となるメキシコ向けは9万7300トン（同1.7%減）と

わずかに減少した。また、日本向けは、競合するスペイン産やブラジル産に比べて米国産が割高となったことなどから、3万2300トン（同18.7%減）と大幅に減少した。

25年の輸出量についてUSDAは、関税の影響による市場の不透明感から、315万5000トン（前年比2.3%減）とわずかな減少を見込んでいる。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

国名	2024年 2月	25年 2月	25年		25年 (1～2月)	前年同期比 (増減率)
			前年同月比 (増減率)	シェア		
メキシコ	99.0	97.3	▲1.7%	38.0%	206.2	0.1%
日本	39.7	32.3	▲18.7%	12.6%	63.2	▲20.7%
韓国	29.4	25.3	▲14.1%	9.9%	48.8	▲16.4%
カナダ	19.4	18.4	▲5.6%	7.2%	35.6	▲7.6%
中国	14.4	16.9	17.4%	6.6%	36.0	37.1%
コロンビア	15.3	13.9	▲9.0%	5.4%	24.7	▲13.6%
ドミニカ共和国	12.3	10.7	▲13.7%	4.2%	19.4	▲14.5%
豪州	11.6	10.2	▲12.0%	4.0%	22.9	▲1.2%
その他	27.9	31.4	12.7%	12.2%	61.1	16.7%
合計	269.2	256.4	▲4.8%	100.0%	518.0	▲3.3%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：枝肉重量ベース。

注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

（調査情報部 大西 未来）

カナダ

25年1～2月の豚肉輸出量、前年同期比13.4%増

25年1月の豚総飼養頭数、前年同月比0.9%減

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2025年1月1日時点の豚総飼養頭数は1386万頭（前年同月比0.9%減）とわずかに減少した（表1）。内訳を見ると、繁殖豚が121万頭（同1.6%減）、肥育豚は1264

万頭（同0.9%減）となった。繁殖豚頭数は、カナダ国内の主産地4州^{（注）}のうち、オンタリオ州のみ増加したが、他3州では、食肉処理・加工施設の閉鎖に伴う処理頭数の削減などが生産者の増頭意欲の低下につながったとみられ減少した。

25年のカナダの豚肉生産量について米国農務省（USDA）は、と畜頭数の減少（2140

万頭、同0.3%減) などから208万トン (同0.5%減) とわずかな減少を見込んでいる。

(注) 主産地4州は、マニトバ州、オンタリオ州、ケベック州、アルバータ州で、全体の飼養頭数の9割以上を占めている。

表1 豚飼養頭数の推移

(単位: 千頭)

種類	2023年	24年	25年	前年比 (増減率)
繁殖豚	1,241.1	1,230.1	1,210.5	▲1.6%
肥育豚	12,653.9	12,754.9	12,644.5	▲0.9%
23kg未満	5,194.2	5,205.1	5,249.4	0.9%
23～53kg	2,460.6	2,456.7	2,376.5	▲3.3%
54～80kg	2,386.6	2,410.8	2,426.7	0.7%
81kg以上	2,612.5	2,682.3	2,591.9	▲3.4%
合計	13,895.0	13,985.0	13,855.0	▲0.9%

資料: Statistics Canada
注: 各年1月1日現在。

25年1～2月の生体豚輸出量、前年同期比1.4%増

カナダ統計局によると、2025年1～2月の生体豚輸出頭数は120万頭（前年同期比1.4%増）とわずかに増加した（図）。カナダ国内で豚肉の消費量が減少し、食肉処理加工能力が低下する中で、米国の需要増により堅調に推移したものとみられる。一方、25年のカナダの生体豚輸出頭数について

USDAは、豚総飼養頭数の減少や北米内の不透明な貿易環境から、658万頭（前年比2.7%減）とわずかな減少を見込んでいる。

25年1～2月の豚肉輸出量は前年同期比13.4%増、輸入量は同11.3%減

カナダ統計局によると、2025年1～2月の豚肉輸出量は日本、メキシコ、韓国向けなどの増加から、21万2600トン（前年同期比13.4%増）とかなり大きく増加した（表2）。一方、同期間の豚肉輸入量は、カナダドル安で推移する為替相場や国内需要の減少の影響から、2万1100トン（同11.3%減）とかなり大きく減少した（表3）。

25年のカナダの豚肉輸出量についてUSDAは、国内生産量の減少や不透明な貿易環境などから、136万6000トン（枝肉換算ベース、前年比4.7%減）とやや減少すると見込んでいる。また、同年の豚肉輸入量は国内需要の低迷などから、23万トン（同5.0%減）とやや減少すると見込んでいる。

図 米国向け生体豚輸出頭数の推移

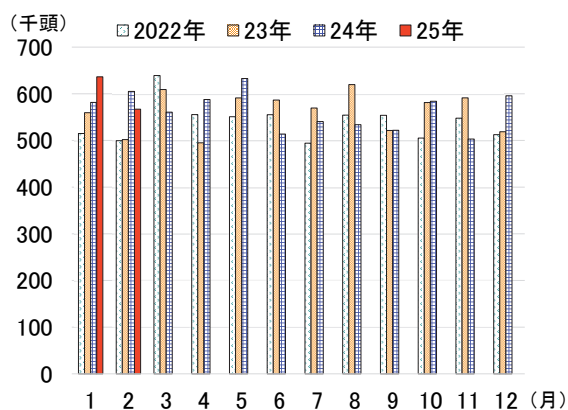


表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

国名	2024年 2月	25年 2月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～2月)	
					前年同期比 (増減率)	
日本	20.5	36.9	80.2%	29.9%	58.1	30.9%
米国	23.9	22.2	▲7.3%	17.9%	45.5	▲5.1%
メキシコ	10.3	17.2	66.0%	13.9%	29.7	38.8%
韓国	7.7	14.7	92.3%	11.9%	21.7	43.6%
フィリピン	9.0	9.5	5.7%	7.7%	14.4	▲4.3%
中国	9.0	9.3	2.7%	7.5%	19.4	6.4%
その他	13.7	13.8	0.5%	11.2%	24.0	▲6.0%
合計	94.1	123.5	31.2%	100.0%	212.6	13.4%

資料：Statistics Canada

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

表3 輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：千トン)

国名	2024年 2月	25年 2月	前年同月比 (増減率)	輸入割合	25年 (1～2月)	
					前年同期比 (増減率)	
米国	8.7	8.3	▲5.5%	79.9%	17.3	▲9.0%
ブラジル	1.4	1.0	▲30.9%	9.2%	1.4	▲40.2%
ドイツ	0.6	0.3	▲46.5%	3.1%	0.9	▲5.8%
デンマーク	0.5	0.3	▲41.0%	2.8%	0.8	▲14.2%
その他	0.4	0.5	18.3%	4.9%	0.8	21.5%
合計	11.6	10.3	▲11.2%	100.0%	21.1	▲11.3%

資料：Statistics Canada

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

(調査情報部 大西 未来)

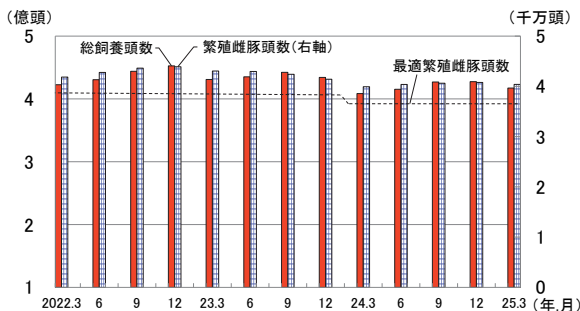
中国

豚肉価格は下落傾向も前年比で高値を維持、豚肉輸入量は増加

25年3月末の繁殖雌豚頭数、前年同月比1.2%増

中国農業農村部によると、2025年3月末時点の繁殖雌豚頭数は4039万頭（前年同月比1.2%増）となった（図1）。この頭数は、同部が最適な水準としている3900万頭を3.6%上回っている。

図1 豚飼養頭数の推移



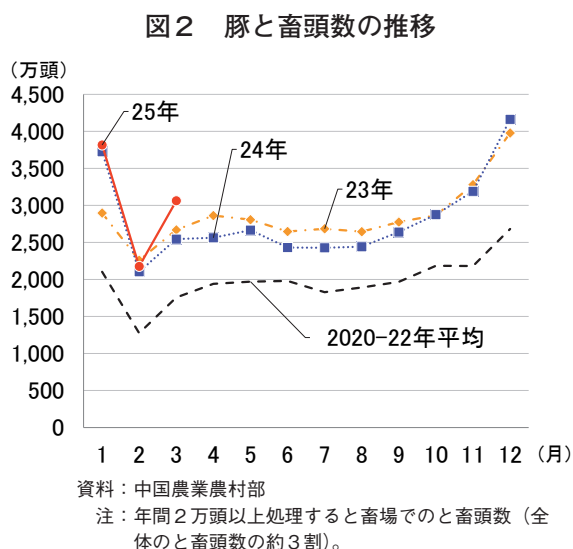
資料：中国国家统计局

注1：四半期ごとの公表値。

注2：2024年3月1日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。

25年3月の豚と畜頭数、前年同月比20.4%増

2025年3月の豚と畜頭数は、3063万頭（前年同月比20.4%増）と大幅に増加した（図2）。この要因として、中国農業農村部は25年3月および4月に公表した「農産物需給動向分析月報」で、24年5月以降に繁殖雌豚頭数の増加とそれに伴う子豚の出生頭数の増加がみられた中で、これらの豚のと畜出荷時期を迎えていることを挙げている。また、子豚の生産頭数の増加について、繁殖雌豚1頭当たりの離乳頭数の増加も要因とする報道もある。



25年3月の豚肉小売価格、前月比3.9%安

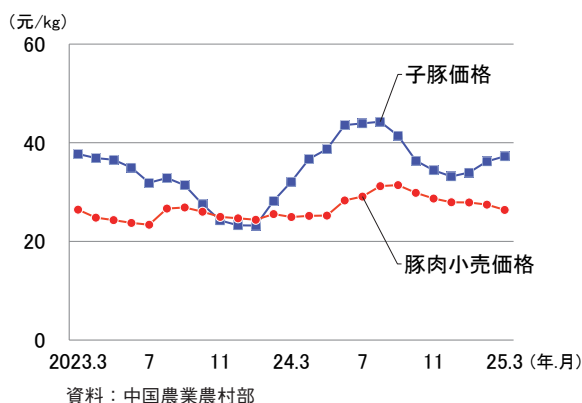
2025年3月の豚肉小売価格は、前月比3.9%安の1キログラム当たり26.4元（526円：1元＝19.91円^{（注1）}、前年同月比5.8%高）となった（図3）。前月からの豚肉価格の下落について現地関係者は、旧正月（春節、25年は1月29日）後の低需要期における

出荷頭数の増加と市場への豚肉供給量の増加が要因とみているが、まだ前年の水準は上回っている状況である。

一方、豚肉生産にも影響する同月の子豚価格は、前月比2.9%高の同37.2元（741円、前年同月比16.0%高）となった。この要因について現地関係者は、養豚業者が豚肉の需要期である旧正月に向けて肥育豚を出荷し、その後も出荷適期となった肥育豚の出荷が続いたことで、肥育もと豚の補充意欲が高まったためとしている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年4月末TTS相場。

図3 豚肉小売価格および子豚価格の推移



25年1～3月の豚肉輸入量、前年同期比7.0%増

2025年1～3月の豚肉輸入量は27万909トン（前年同期比7.0%増）となり、ブラジルを除くすべての主要輸入先で前年同期を上回った（表）。この要因について現地関係者は、1月末の旧正月に向けて豚肉需要が高まる中、国産豚肉に比べて価格優位性のある輸入豚肉の引き合いが強まったためとしている。

なお、輸入豚肉については、25年3月以降、中国政府がカナダ産^{（注2）}や米国産に追加関税

を措置していることから、今後の輸入動向への影響が注目されている。

(注2) カナダ政府が2024年10月から中国製の電気自動車 (EV) などに関税を課したことへの対抗措置として、カナダ産豚肉に25%の追加関税を措置している。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

国名	2023年	24年	25年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	37.8	29.0	7.5	11.9%
ブラジル	40.2	23.7	5.5	▲22.7%
カナダ	13.2	7.6	2.0	7.2%
米国	12.3	7.0	2.0	13.5%
オランダ	12.0	7.5	2.0	11.4%
チリ	8.4	6.5	1.9	30.9%
その他	30.1	23.7	6.2	33.4%
合計	154.1	105.1	27.1	7.0%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

(調査情報部 平山 宗幸)

牛乳・乳製品

E U

25年3月の生乳取引価格、乳製品価格はいずれも堅調に推移

25年2月の生乳出荷量は前年同月比5.7%減

欧州委員会によると、2025年2月の生乳出荷量(EU27カ国)は1091万3000トン(前年同月比5.7%減)と前年同月をやや下回った(表、図1)。主要生産国別に見ると、ドイツ(同6.6%減)、フランス(同7.3%減)、オランダ(同5.9%減)、ポーランド(同

1.8%減)など上位4カ国をはじめ、すべての主要生産国で前年同月を下回った。これは、乳用経産牛飼養頭数の減少や、うるう年であった前年に比べて今年は日数が1日少なかったことが影響したとみられている。

一方、同月の生乳の成分含有割合(EU27カ国の平均)は、乳脂肪分割合(同1.8%増)、乳たんぱく質割合(同0.8%増)ともに前年同月をわずかに上回った。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

国名	2024年 2月	25年 2月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～2月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,627	2,453	▲6.6%	5,118	▲4.3%
フランス	1,985	1,840	▲7.3%	3,849	▲4.1%
オランダ	1,126	1,059	▲5.9%	2,215	▲3.8%
ポーランド	1,078	1,058	▲1.8%	2,205	0.7%
イタリア	1,107	1,009	▲8.8%	2,151	▲3.9%
スペイン	608	578	▲4.9%	1,202	▲2.9%
デンマーク	456	435	▲4.6%	914	▲1.5%
ベルギー	371	340	▲8.3%	709	▲5.8%
その他	2,213	2,141	▲3.3%	4,248	13.1%
合計	11,569	10,913	▲5.7%	22,610	▲2.9%

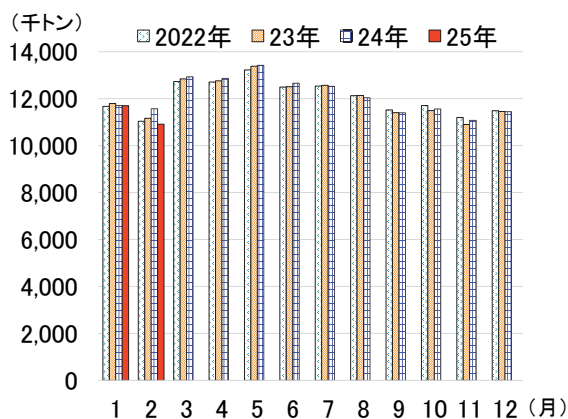
資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルクを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

図1 生乳出荷量の推移



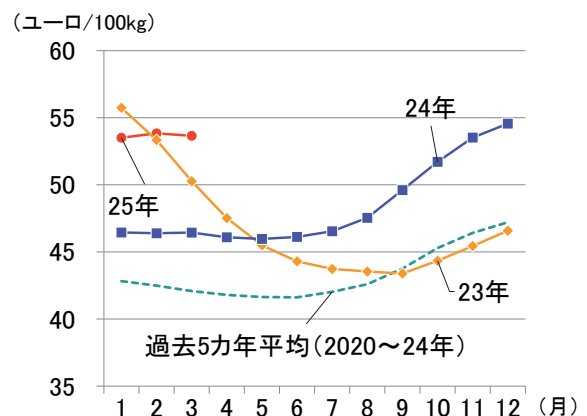
25年3月の生乳取引価格は前年同月比15.5%高

欧州委員会によると、2025年3月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり53.65ユーロ（1キログラム当たり87.8円：1ユーロ＝163.67円^{（注）}、前年同月比15.5%高）と11カ月連続で前年同月を上回った（図2）。引き続き、高水準に

あるバターなどの乳製品価格にけん引される形で好調を維持している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年4月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



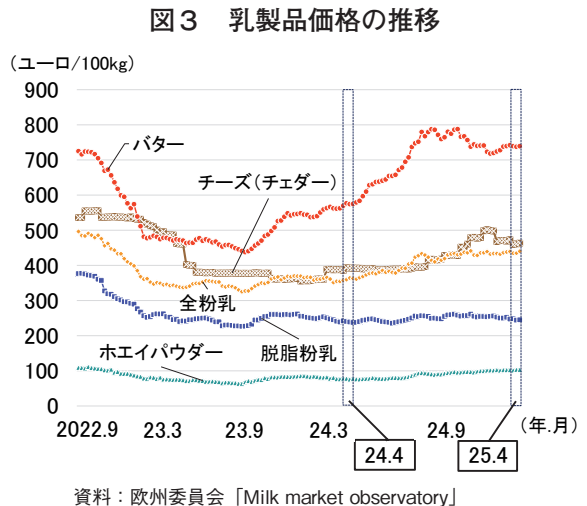
25年4月第4週のバター価格は前年同期比28.7%高

欧州委員会によると、2025年4月20日の週の製品別乳製品価格（EU27カ国の平均）

は、バターが100キログラム当たり739ユーロ（1キログラム当たり1210円、前年同期比28.7%高）と前年同期を大幅に上回り、高値を継続している。また、チーズは同463ユーロ（同758円、同18.1%高）と同じく前年同期を大幅に上回ったが、前月同期比では1.2%安とわずかに下落した。さらに、全粉乳は同440ユーロ（同720円、同20.8%高）、脱脂粉乳は同245ユーロ（同401円、同2.6%高）といずれも前年同期を上回った（図3）。

堅調な域内価格やユーロ高などを背景に輸出競争力は低下している。なお、現地業界紙によれば、25年1月中旬のドイツ、25年3月の東欧でいずれも発生した口蹄疫については、

現段階で欧州の乳製品価格に影響を及ぼしていないとみられている。



（調査情報部 渡辺 淳一）

豪州

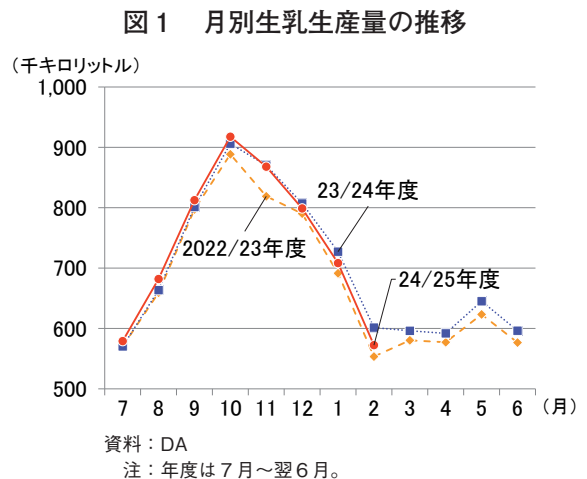
24/25年度の生乳生産量は前年度を下回る見込み

25年2月の生乳生産量、前年同月比4.8%減

デイリー・オーストラリア（DA）が2025年4月に公表した「Milk Production Reports」によると、25年2月の生乳生産量は前年同月比4.8%減の57万2353キロリットル（58万9524トン相当）となり、24年11月以降、4カ月連続で前年同月を下回った（図1）。

この結果、24/25年度（7月～翌6月）2月までの累計生乳生産量は、前年同期比0.1%減の593万8534キロリットル（611万6690トン相当）となった。

24/25年度の生乳生産量について、豪州農林水産省（DAFF）と豪州農業資源経済科学局（ABARES）が25年3月に公表した



「Agricultural Commodities Report」では、（1）24/25年度の生産者乳価が下落し、酪農家の利幅が減少することで廃業が進むこと（2）酪農家の廃業による乳牛飼養頭数および生乳生産量の減少が、乳用牛1頭当たり乳量の増加による生乳生産量の増加を上回る

こと一などから、834万キロリットル（859万トン相当、前年度比0.4%減）と予測している^(注)。

(注) 詳細については、『畜産の情報』2025年5月号「豪州の農畜産物需給見通し ～2025年豪州農業需給観測会議と温室効果ガス排出削減の取り組み～」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003700.html) をご参照ください。

25年2月の脱脂粉乳および全粉乳の輸出量が減少

DAが2025年4月に公表した「Dairy Export Summary」によると、25年2月の主要乳製品4品目の輸出量は、品目ごとに大きく異なる動きを見せた（表、図2）。

脱脂粉乳は、タイやマレーシア向けが増加したものの、輸出量全体に占める割合が高い中国、

インドネシア、ベトナム向けが大きく減少したことを受け、前年同月比で21.3%減と大幅に減少した。全粉乳は、中国およびアラブ首長国連邦向けが増加したものの、輸出量全体に占める割合が高いタイ向けが減少したことなどを受け、同6.3%減とかなりの程度減少した。

一方、バターおよびバターオイルは、マレーシアやタイなど東南アジア向けが増加したほか、メキシコやニュージーランドなどからの引き合いが強かったことを受け、同27.6%増と大幅に増加した。

また、チーズは、主要輸出先である中国向けに加え、インドネシアやフィリピンなど東南アジア向けが堅調に推移したことを受け、同18.5%増と大幅に増加した。

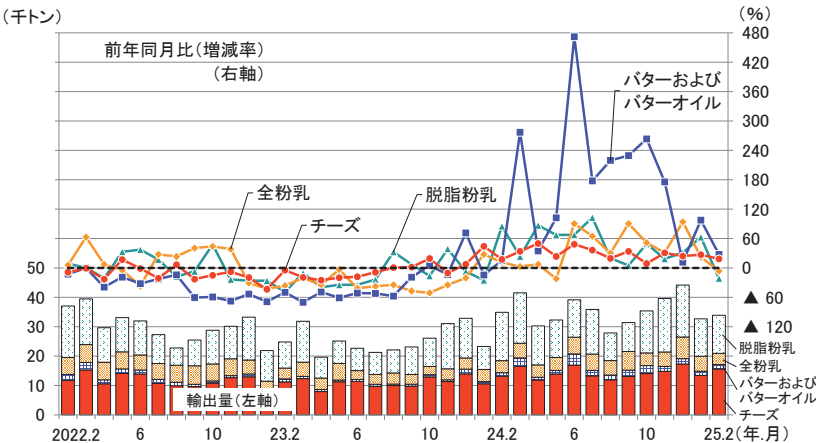
表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2024年 2月	25年 2月	前年同月比 (増減率)	24/25年度	前年同期比 (増減率)
				(7月～翌2月)	
脱脂粉乳	16,455	12,952	▲21.3%	110,313	26.2%
全粉乳	4,100	3,840	▲6.3%	42,298	45.3%
バターおよびバターオイル	1,174	1,497	27.6%	14,717	120.1%
チーズ	13,168	15,599	18.5%	113,517	24.2%

資料：DA
注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA
注：製品重量ベース。

(調査情報部 平山 宗幸)

25年3月の生乳生産量は堅調を維持

25年3月の生乳生産量、前年同月比0.6%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2025年3月の生乳生産量は176万3000トン（前年同月比0.6%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。ニュージーランド証券取引所（NZX）によると、北島では乾燥した天候が継続しているものの、

南島の酪農地域では天候に恵まれたことで、3月の生産量は堅調を維持したとされている。北島の状況について現地報道によると、3月に北島のタラナキ、ワイカト地域など主要酪農地帯での干ばつが報告されているが、高水準にある生産者乳価を背景として、生乳生産量を確保するために例年より多くの補助飼料（パーム核かす、コーンサイレージなど）が給餌されている。他方で、補助飼料の確保が困難な生産者は、例年より4～6週間早く乾乳期に入っている。

今後の生乳生産量についてNZXは、北島を中心に乾乳期を迎える生産者が増加することで、前年を下回ると予想している。

25年3月の乳製品輸出量、全粉乳を除く主要3品目で増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2025年3月の乳製品輸出量は、全粉乳を除く主要3品目で前年同月を上回った（表、図2）。この3品目はいずれも中国向けが増加した。

図1 生乳生産量の推移

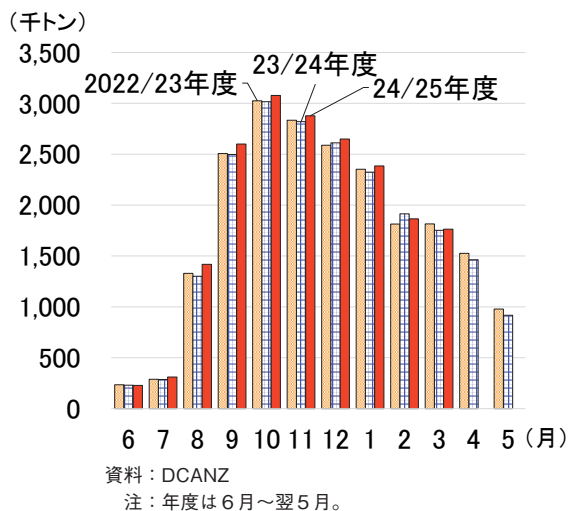


表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2024年 3月	25年 3月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	36,147	41,817	15.7%
全粉乳	131,910	127,121	▲3.6%
バターおよびバターオイル	39,447	43,926	11.4%
チーズ	29,738	41,335	39.0%

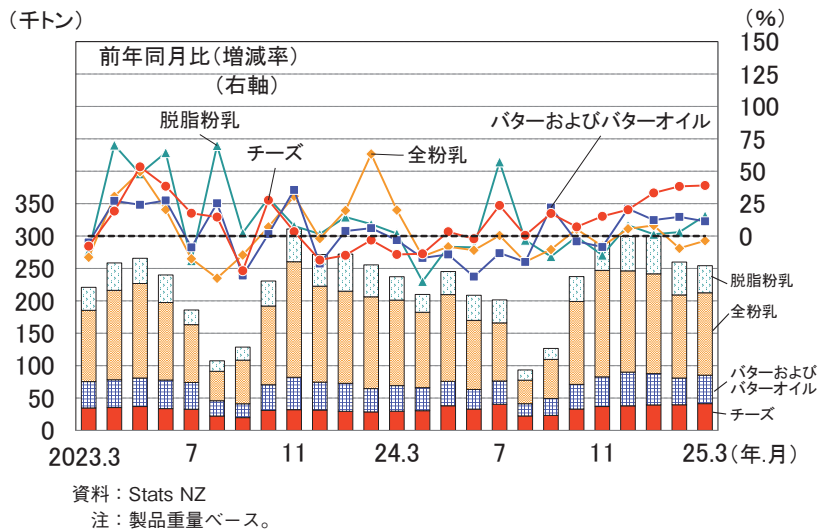
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移



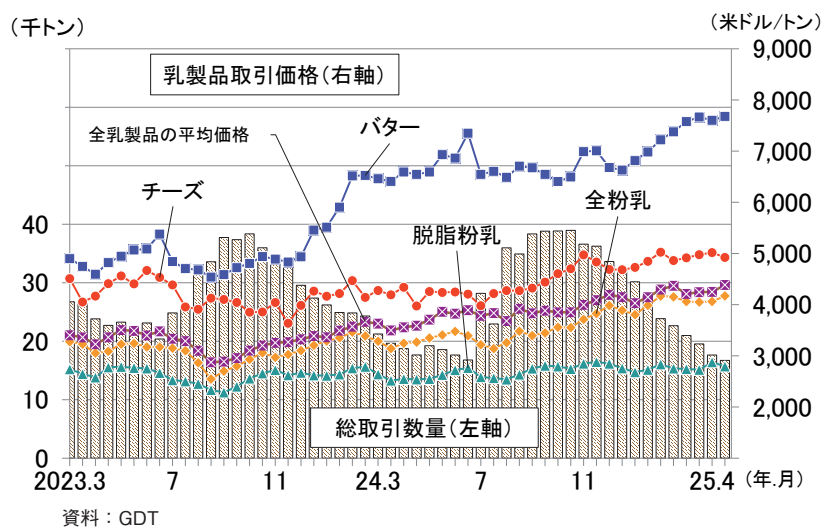
25年4月15日のGDT平均価格、全粉乳およびバターは前回を上回る

2025年4月15日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、全粉乳およびバターが前回開催時（25年4月1日）を上回った（図3）。米国の輸入関税をめぐり、乳製品国際市場にも不透明感が漂う中、北アジアからの購入量が増

加していることから、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり4385米ドル（62万9554円、1米ドル＝143.57円^(注2)、前回比3.2%高）となった。

（注1）グローバルデ일리ートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年4月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



（調査情報部 田中 美宇）

飼料穀物

世界

消費量および輸出量の上方修正から期末在庫は下方修正されかなりの程度減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年4月10日、24/25年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億1510万トン（前年度比1.2%減）と前月から93万トン上方修正された。生産量上位3カ国は据え置かれたものの、EUが作付面積の増加により前月から131万トン上方修正されたことなどが反映された。

輸入量は、世界全体で1億8209万トン（同8.0%減）と前月から179万トン上方修正された。このうち、EUが2000万トン（同0.9%増）と前月から50万トン上方修正されたことなどが反映された。

消費量は、世界全体で12億4178万トン（同1.8%増）と前月から259万トン上方修正された。このうち、米国は前月から64万トン下方修正されたものの、EUが同170万トン上方修正されたことなどが反映された。

輸出量は、世界全体で1億8868万トン（同2.4%減）と前月から232万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国である米国は6477万トン（同11.2%増）と前月から254万トン上方修正されたことが反映された。

この結果、期末在庫は、消費量および輸出量の伸びが輸入量を上回ったことで、2億8765万トン（同8.5%減）と前月から129万トン下方修正された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2025年4月10日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2022/23 年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			
			(3 月 予 測)	(4 月 予 測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.98	34.55	44.79	44.79	29.6%
	生産量	346.74	389.67	377.63	377.63	▲3.1%
	輸入量	0.98	0.72	0.64	0.64	▲11.1%
	消費量	305.93	321.92	321.71	321.07	▲0.3%
	輸出量	42.22	58.23	62.23	64.77	11.2%
	期末在庫	34.55	44.79	39.12	37.22	▲16.9%
ブラジル	期首在庫	3.97	10.04	7.46	7.48	▲25.5%
	生産量	137.00	119.00	126.00	126.00	5.9%
	輸入量	1.33	1.72	1.50	1.50	▲12.8%
	消費量	78.00	85.00	88.00	88.00	3.5%
	輸出量	54.26	38.28	44.00	44.00	14.9%
	期末在庫	10.04	7.48	2.96	2.98	▲60.2%
アルゼンチン	期首在庫	4.75	2.32	2.59	2.68	15.5%
	生産量	37.00	51.00	50.00	50.00	▲2.0%
	輸入量	0.02	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.20	14.40	14.30	14.30	▲0.7%
	輸出量	25.24	36.26	36.00	36.00	▲0.7%
	期末在庫	2.32	2.68	2.29	2.38	▲11.2%
ウクライナ	期首在庫	7.80	3.00	1.07	1.07	▲64.3%
	生産量	27.00	32.50	26.80	26.80	▲17.5%
	輸入量	0.02	0.01	0.02	0.02	100.0%
	消費量	4.70	4.95	5.15	5.15	4.0%
	輸出量	27.12	29.49	22.00	22.00	▲25.4%
	期末在庫	3.00	1.07	0.74	0.74	▲30.8%
E U	期首在庫	11.36	8.02	7.24	7.31	▲8.9%
	生産量	52.38	61.95	58.00	59.31	▲4.3%
	輸入量	23.19	19.83	19.50	20.00	0.9%
	消費量	74.70	78.10	75.70	77.40	▲0.9%
	輸出量	4.20	4.39	2.50	2.50	▲43.1%
	期末在庫	8.02	7.31	6.54	6.73	▲7.9%
中国	期首在庫	209.14	206.04	211.29	211.29	2.5%
	生産量	277.20	288.84	294.92	294.92	2.1%
	輸入量	18.71	23.41	8.00	8.00	▲65.8%
	消費量	299.00	307.00	313.00	313.00	2.0%
	輸出量	0.01	0.00	0.02	0.02	—
	期末在庫	206.04	211.29	201.18	201.18	▲4.8%
世界計	期首在庫	314.25	304.77	313.95	314.33	3.1%
	生産量	1164.18	1229.33	1214.17	1215.10	▲1.2%
	輸入量	173.45	198.03	180.30	182.09	▲8.0%
	消費量	1173.66	1219.77	1239.19	1241.78	1.8%
	輸出量	180.40	193.40	186.36	188.68	▲2.4%
	期末在庫	304.77	314.33	288.94	287.65	▲8.5%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 岡田 真希奈)

消費量増加も、前年度生産量の上方修正から 大豆期末在庫は高水準を維持

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年4月10日、24/25年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2058万トン（前年度比6.1%増）と前月から18万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルとこれに次ぐ米国はいずれも前月から据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7941万トン（同0.7%増）と前月から21万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億900万トン（同2.7%減）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億5484万トン（同7.3%増）と前月から200万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は前月から据え置かれたが、ブラジルが前月から100万トン、アルゼンチンが同60万トン、それぞれ上方修正されたことなどが反映されている。

輸出量は、世界全体で1億8212万トン（同2.5%増）と前月から17万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルと

これに次ぐ米国はいずれも前月から据え置かれた。

期末在庫は、23/24年度ブラジルの生産量修正（前月から150万トン上方修正）などにより期首在庫が前月から272万トン上方修正されたことも反映し、世界全体で1億2247万トン（同6.2%増）と前月から106万トン上方修正された。

今回の予測では、米国の生産量が据え置かれた中で、米国内消費量（搾油仕向け）の上方修正は行われたものの、期末在庫は市場関係者の事前予想範囲内の水準であり、米国の生産者販売価格は前月と同じく1ブッシェル当たり9.95米ドル（1429円、1キログラム当たり52円^{（注1）}：1米ドル＝143.57円^{（注2）}）に据え置かれている。

また、今回の予測値に関して中国に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した同年度の輸入量9460万トンとは引き続き乖離がある。米中貿易摩擦が報じられる中で、国際相場にも影響する同国の輸入動向が注目されている。

（注1） 1ブッシェルを約27.215キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2） 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年4月末TTS相場。

表 主要国の大豆需給見通し（2025年4月10日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			
			(3 月 予 測)	(4 月 予 測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	7.47	7.19	9.32	9.32	29.6%
	生産量	116.22	113.27	118.84	118.84	4.9%
	輸入量	0.67	0.57	0.54	0.68	19.3%
	消費量	60.20	62.20	65.59	65.86	5.9%
	輸出量	53.87	46.13	49.67	49.67	7.7%
	期末在庫	7.19	9.32	10.34	10.21	9.5%
ブラジル	期首在庫	27.38	36.82	27.97	29.76	▲19.2%
	生産量	162.00	154.50	169.00	169.00	9.4%
	輸入量	0.15	0.87	0.15	0.15	▲82.8%
	消費量	53.41	54.40	56.00	57.00	4.8%
	輸出量	95.50	104.17	105.50	105.50	1.3%
	期末在庫	36.82	29.76	31.52	32.31	8.6%
アルゼンチン	期首在庫	23.69	17.00	24.05	24.05	41.5%
	生産量	25.00	48.21	49.00	49.00	1.6%
	輸入量	9.06	7.79	6.00	6.20	▲20.4%
	消費量	30.32	36.58	42.00	42.60	16.5%
	輸出量	4.19	5.11	4.50	4.50	▲11.9%
	期末在庫	17.00	24.05	24.95	24.65	2.5%
中国	期首在庫	25.15	32.34	43.31	43.31	33.9%
	生産量	20.28	20.84	20.65	20.65	▲0.9%
	輸入量	104.50	112.00	109.00	109.00	▲2.7%
	消費量	96.00	99.00	105.00	105.00	6.1%
	輸出量	0.09	0.07	0.10	0.10	42.9%
	期末在庫	32.34	43.31	43.96	43.96	1.5%
世界計	期首在庫	93.48	101.79	112.55	115.27	13.2%
	生産量	378.24	396.40	420.76	420.58	6.1%
	輸入量	168.56	178.10	179.20	179.41	0.7%
	消費量	315.60	330.78	352.84	354.84	7.3%
	輸出量	171.79	177.71	181.95	182.12	2.5%
	期末在庫	101.79	115.27	121.41	122.47	6.2%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国は輸出量の増加などから期末在庫は大幅に減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2025年4月10日、24/25年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

米国内生産量は、148億6700万ブッシェル（3億7764万トン^{（注1）}、前年度比3.1%減）と前月から据え置かれた。

米国内消費量は、飼料等向けの下方向修正により126億4000万ブッシェル（3億2107万トン、同0.3%減）と前月から下方修正された。

輸出量は、25億5000万ブッシェル（6477万トン、同11.3%増）と前月から上方修正

された。他の輸出国に比べて比較的競争力のある米国産トウモロコシ価格を背景とした、EU向け輸出の増加予測などを反映したものとされている。

この結果、期末在庫は14億6500万ブッシェル（3721万トン、同16.9%減）と前月から下方修正され、前年度を大幅に下回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、9.6%（同2.2ポイント減）と、同じく前年度を下回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.35米ドル（625円。1キログラム当たり

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2025年4月10日米国農務省公表）

区分	－単位－	2022/23 年度	23/24 年度 (推計値)	24/25年度			
				(3月予測)	(4月予測)	参考（換算値）	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	88.2	94.6	90.6	90.6	36.67（百万ヘクタール）	▲4.2%
収穫面積	(百万エーカー)	78.7	86.5	82.9	82.9	33.55（百万ヘクタール）	▲4.2%
単収	(ブッシェル/エーカー)	173.4	177.3	179.3	179.3	11.25（トン/ヘクタール）	1.1%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	1,763	1,763	44.78（百万トン）	29.6%
生産量	(百万ブッシェル)	13,651	15,341	14,867	14,867	377.64（百万トン）	▲3.1%
輸入量	(百万ブッシェル)	39	28	25	25	0.64（百万トン）	▲10.7%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,066	16,729	16,655	16,655	423.05（百万トン）	▲0.4%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,044	12,673	12,665	12,640	321.07（百万トン）	▲0.3%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,486	5,805	5,775	5,750	146.06（百万トン）	▲0.9%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,558	6,868	6,890	6,890	175.01（百万トン）	0.3%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,176	5,478	5,500	5,500	139.71（百万トン）	0.4%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,662	2,292	2,450	2,550	64.77（百万トン）	11.3%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,706	14,966	15,115	15,190	385.84（百万トン）	1.5%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,763	1,540	1,465	37.21（百万トン）	▲16.9%
期末在庫率	(%)	9.9	11.8	10.2	9.6		2.2ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.54	4.55	4.35	4.35	24.6（円/kg）	▲4.4%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

25円: 1米ドル＝143.57円^(注2)、同4.4%安)
と前月から据え置かれた。

(注1) 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年4月末TTS相場。

(調査情報部 岡田 真希奈)

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

25年3月の国産トウモロコシ価格、国内の需要を反映してわずかに上昇

中国農業農村部は2025年4月23日、「農産物需給動向分析月報（2025年3月）」を公表した。この中で、25年3月の国産トウモロコシ価格は前月からわずかに上昇した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、政府系企業による買い入れが続く中で、飼料需要の高まりなどを背景とした飼料製造企業などによる在庫拡充に向けた活発な購入も報告されている。このため、国産トウモロコシの販売状況は前年に比べて速いペースとなり、主産地からの供給量が減少していることも、価格の上昇を後押ししている。短期的には、買入在庫を放出する可能性はあるものの、

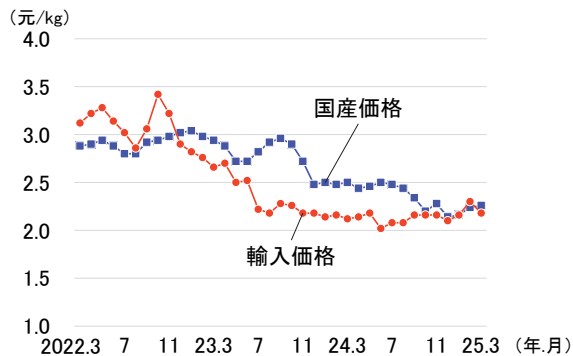
高い需要を反映して国産トウモロコシ価格は引き続き上昇すると見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地^{かんとう}の中国南部向け飼料原料集積地である広東省^{こうほう}黄埔港到着は、25年3月が1キログラム当たり2.18元（43円: 1元＝19.91円（注）、前月比5.2%安）とやや下落した。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）は同2.26元（45円、同0.9%高）とわずかに上昇したことで、再び輸入トウモロコシ価格を上回った。

25年3月の国産大豆価格、飼料向け需要の増加からわずかに上昇

2025年3月の国産大豆価格は、前月からわずかに上昇した（図2）。同月の大豆需給を見ると、飼料向けの大豆油かす需要の増加

図1 トウモロコシ価格の推移

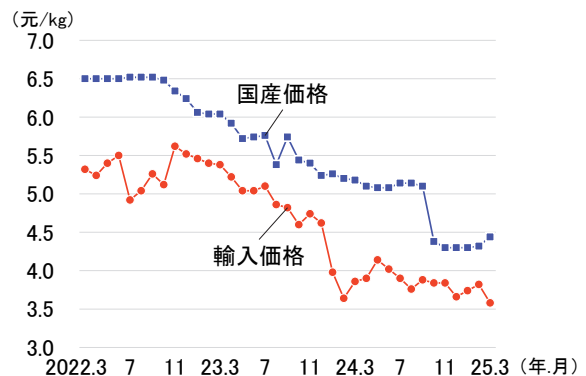


資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

から、搾油企業の利益率が改善されたことで、市場取引量増加が報告されている。また、主産地である東北地方の大豆在庫が最盛期の1割と低いことも、価格の上昇を後押ししている。短期的には、産地の在庫水準は低いものの、気温の上昇に伴い大豆加工製品の需要が減少に向かうことで、国産大豆価格は安定して推移すると見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、25年3月が1キログラム当たり3.92元（78円、前年同月比15.3%安）と前月に続き上昇したものの、前年同月を大幅に下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同4.44元（88円、同14.3%安）と同じく上昇したものの、前年同月をかなり大きく下回った。同月の輸入大豆価格が同3.58元（71円）と下がったことで、輸入と国産の価格差は前月の同0.50

元（10円）から同0.86元（17円）に拡大した。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年4月末TTS相場。

24/25年度のトウモロコシ輸入量を下方修正、大豆は据え置き

中国農業農村部は2025年4月10日、最新の「中国農産物需給状況分析」を公表した。この中で、24/25年度（10月～翌9月）のトウモロコシ輸入量は、前月から200万トン下方修正の700万トン（前年度比70.1%減）に見直された（表1）。

これについて同部は、今年に入り輸入量が低水準にあることを踏まえたものとしている。また、中国が米国産トウモロコシに対して追加関税を課したため、米国産トウモロコシ輸入量の減少を予想するとともに、今後の

表1 中国のトウモロコシ需給見通し（2025年4月10日中国農業農村部公表）

区 分	—単位—	2022/23年度	23/24年度	24/25年度		
			（推計値）	（3月予測）	（4月予測）	前年度比 （増減率）
作付面積	（千ヘクタール）	43,070	44,219	44,741	44,741	1.2%
収穫面積	（千ヘクタール）	43,070	44,219	44,741	44,741	1.2%
単収	（キログラム/ヘクタール）	6,436	6,532	6,592	6,592	0.9%
生産量	（万トン）	27,720	28,884	29,492	29,492	2.1%
輸入量	（万トン）	1,871	2,341	900	700	▲70.1%
総供給量（生産量＋輸入量）	（万トン）	29,591	31,225	30,392	30,192	▲3.3%
消費量	（万トン）	29,051	29,500	29,964	29,964	1.6%
食用向け	（万トン）	980	991	1,000	1,000	0.9%
飼料向け	（万トン）	18,800	19,100	19,350	19,350	1.3%
工業向け	（万トン）	8,100	8,238	8,450	8,450	2.6%
種子向け	（万トン）	191	193	196	196	1.6%
その他向け	（万トン）	980	978	968	968	▲1.0%
輸出量	（万トン）	1	1	1	1	—
総消費量（消費量＋輸出量）	（万トン）	29,052	29,501	29,965	29,965	1.6%
差引数量（総供給量－総消費量）	（万トン）	539	1,724	427	227	▲86.8%

資料：中国農業農村部
注：年度は10月～翌9月。

国際貿易をめぐる政策動向にも注目が必要と
している。

一方、24/25年度の大豆輸入量は、前月

から据え置きの9460万トン（同9.7％減）
とされた（表2）。

表2 中国の大豆需給見通し（2025年4月10日中国農業農村部公表）

区 分	－単位－	2022/23年度	23/24年度	24/25年度		
			（推計値）	（3月予測）	（4月予測）	前年度比 （増減率）
作付面積	（千ヘクタール）	10,244	10,474	10,325	10,325	▲1.4%
収穫面積	（千ヘクタール）	10,244	10,474	10,325	10,325	▲1.4%
単収	（キログラム/ヘクタール）	1,980	1,990	2,000	2,000	0.5%
生産量	（万トン）	2,028	2,084	2,065	2,065	▲0.9%
輸入量	（万トン）	9,750	10,475	9,460	9,460	▲9.7%
総供給量（生産量＋輸入量）	（万トン）	11,778	12,559	11,525	11,525	▲8.2%
消費量	（万トン）	11,415	11,694	11,456	11,456	▲2.0%
搾油向け	（万トン）	9,593	9,750	9,490	9,490	▲2.7%
食用向け	（万トン）	1,432	1,535	1,560	1,560	1.6%
種子向け	（万トン）	90	89	88	88	▲1.1%
その他向け	（万トン）	300	320	318	318	▲0.6%
輸出量	（万トン）	9	9	18	18	100.0%
総消費量（消費量＋輸出量）	（万トン）	11,424	11,703	11,474	11,474	▲2.0%
差引数量（総供給量－総消費量）	（万トン）	354	856	51	51	▲94.0%

資料：中国農業農村部
注：年度は10月～翌9月。

（調査情報部 横田 徹）